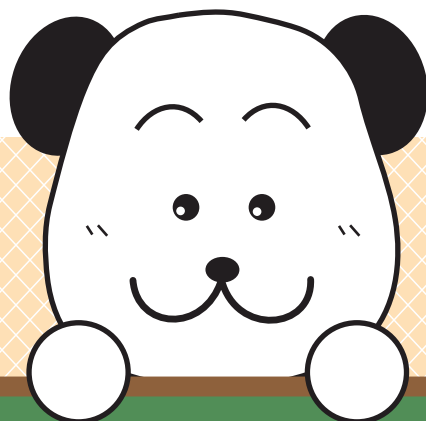


🎯 当たるから選ばれる

教育時事確認テスト

的中問題付き

ダイジエス ト版



おすすめ
ポイント

- ☑東アカ独自の分析をもとに、2026年本試験で出題が予想される資料をピックアップし作成したオリジナルテスト
- ☑全国的によく出る「教育時事」分野の最終確認に最適
- ☑空欄補充、五肢択一、○×問題など、各種問題形式に対応
- ☑WEB採点で自身の得点や順位、各問題の平均点など成績をすぐに確認できる
- ☑確認テスト実施後に付属のオンデマンド講義を受講することで、効率良く復習できる

▼ 2025 年実施 教育時事確認テスト 問題

東アカ独自の分析をもとに、
本試験で出題が予想される資料から
問題を作成しています

- 22 「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」(2024 (令和 6) 年 12 月 26 日 Ver.2.0 文部科学省初等中等教育局) に示されている学校現場において生成 AI を利活用する際の基本的な考え方として、誤っているものを選び。
- AI 利用の基本原則として、生成 AI と人間との関係を対立的に捉えたり、必要以上に不安に思ったりするのではなく、生成 AI は使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得るものと捉えるべきである。
 - 生成 AI の出力はあくまでも「参考の一つである」「最適解とは限らない」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、生成 AI の出力結果を踏まえた成果物に自ら責任を持つという基本姿勢が重要である。
 - 児童生徒の学びにおいては、生成 AI を利活用することを目的とし、そのための教育活動を充実させることで、AI リテラシーを育成していくことが求められる。
 - 児童生徒が学びの中で生成 AI を利活用する際、適切な課題設定と提示文(プロンプト)により自らの求める成果物につながる出力をさせ、その真偽や適切性を的確に判断できることが前提となる。
 - 学校現場における生成 AI の効果的な利活用を実現するためにも、生成 AI の仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定の AI リテラシーを身に付けることが求められる。



2025 年実施の本試験で
的中しました！

▼ 2025 年実施本試験 山口県

- 「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」(文部科学省令和 6 年 12 月) で示されている教育における生成 AI の利活用についての説明として適切でないものを次の 1～5 から選び、記号で答えよ。
- 学校現場において、一般向けの汎用的な生成 AI サービスが利活用可能な状況にあるが、1 人 1 台端末の標準仕様であるブラウザや学習支援ソフトウェア、普段利用する検索エンジン等には組み込まれる予定はない。
 - 「最適解とは限らない」ことを認識するとともに、リスクや懸念を踏まえつつ、最後は人間が判断し、生成 AI の出力結果を踏まえた成果物に自ら責任を持つという基本姿勢が重要である。
 - 生成 AI の仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定の AI リテラシーを身に付けることが求められる。
 - 生成 AI と人間との関係を対立的に捉えたり、必要以上に不安に思ったりするのではなく、生成 AI は使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得るものと捉えるべきである。
 - 児童生徒の学びにおいては、学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用すべきであり、生成 AI を利活用することが目的であってはならない。



▼ 2025 年実施 教育時事確認テスト 解答解説

出典資料の概要や
確認しておくべきポイントについて
丁寧に解説しています

- 22 正答 3
- 【解説】
本ガイドラインは、教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成 AI の適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、利活用にあたっての基本的な考え方や押さえるべきポイントをまとめたものであり、学習場面において生成 AI の利活用が考えられる例や不適切と考えられる例も示されているため、あわせて確認しておくこと。
2. 本ガイドライン、2「(1) 学校現場における人間中心の生成 AI の利活用(人間中心の原則)」参照。
 - 児童生徒の学びにおいては、学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、

- 教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用するべきであり、生成 AI を利活用することが目的であってはならない。本ガイドライン、2「(1) 学校現場における人間中心の生成 AI の利活用(児童生徒の学びと生成 AI)」参照。
4. 本ガイドライン、2「(1) 学校現場における人間中心の生成 AI の利活用(児童生徒の学びと生成 AI)」参照。
 5. 本ガイドライン、2「(1) 学校現場における人間中心の生成 AI の利活用(教師の役割と生成 AI)」参照。



設問のどこが誤りなのか、
正答は何なのかを
わかりやすく記載しています

出典資料の根拠となる部分
が示されているため
復習時に役立ちます

▼ 2025 年実施本試験 大阪府

- 次の各文のうち、「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」(令和 6 年 12 月 文部科学省) の記述の内容として誤っているものはどれか。1～5 から一つ選べ。
- 児童生徒の学びにおける生成 AI の利活用においては、適切な課題設定と提示文(プロンプト)により自らの求める成果物につながる出力をさせ、その真偽や適切性を的確に判断できることが前提となる。このため、各教科等で学ぶ知識や文章を読み解く力、物事を批判的に考察する力、問題意識を常に持ち、問いを立て続けることや、その前提としての「学びに向かう力、人間性等」の涵養がこれまで以上に重要になる。
 - 生成 AI の仕組みや特徴を理解するなど、教師には一定の AI リテラシーを身に付けることが求められる。AI リテラシーを身に付けるには、教師自身が新たな技術に慣れ親しむ必要があり、生成 AI を日常使いすることも考えられるが、入力された機密情報や個人情報、生成 AI の機械学習に利用されることがあるため、日常の校務では活用してはならない。
 - 児童生徒の学習場面における生成 AI の利活用にあたっては、生成 AI と人間との関係を対立的に捉えたり、必要以上に不安に思ったりするのではなく、生成 AI は使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得ることを理解した上で、発達の段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべきである。
- (以下略)



この他にも的中問題多数アリ!

▼ 2025 年実施 教育時事確認テスト

次の文は、「第3次学校安全の推進に関する計画」(2022(令和4)年3月25日 閣議決定)に示されている「家庭、地域との連携・協働の推進」の一部である。空欄(ア)～(オ)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものを選べ。

登下校の見守りをはじめとする児童生徒等を取り巻く学校安全上の課題に対して、学校や教職員がその全てを担うことは困難である。特に、平素からの学校と家庭・地域との関係づくりが非常時に児童生徒等の命や安全を守ることにつながることもから、家庭や地域との連携・協働の推進が不可欠である。

また、「子供の安全」について、学校と児童生徒等・家庭・地域の関係者それぞれの(ア)を確認する場を設けることで、例えば、地域ごとに実施される防災訓練において児童生徒等の(ア)が設定され、児童生徒等が(イ)に安全の確保に向けて取り組むことにつながるなど、学校と地域の連携・協働と学校安全の双方が推進されることも期待できるものである。

このため、学校は、例えば、地域学校安全委員会や学校警察連絡協議会等の設置・活用や、(ウ)や地域学校協働活動などの学校と地域の連携・協働の仕組みを活用することにより、地域の関係者との情報共有や意見交換を日常的に行うことや、学校安全の観点を組み入れた学校運営や地域ぐるみでの防犯・交通安全・防災等の取組を行うことが必要である。

(以下略)

ア	イ	ウ	エ	オ
1. 責任	計画的	コミュニティ・スクール	専門的知見	地域防災マップの周知
2. 責任	主体的	学校評議員制度	教育資源	通学路の交通安全の確保
3. 役割	計画的	学校評議員制度	専門的知見	通学路の交通安全の確保
4. 役割	主体的	コミュニティ・スクール	専門的知見	通学路の交通安全の確保
5. 役割	計画的	コミュニティ・スクール	教育資源	地域防災マップの周知



▼ 2025 年実施本試験 静岡県

「第3次学校安全の推進に関する計画(令和4年3月25日 文部科学省)」では、学校安全の推進について、次のとおり述べられている。文中の(①)～(⑤)に入る語句を以下のア～コから一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ番号の()には同じ語句が入る。

登下校の見守りをはじめとする児童生徒等を取り巻く学校安全上の課題に対して、学校や教職員がその全てを担うことは困難である。特に、平素からの学校と家庭・地域との関係づくりが非常時に児童生徒等の命や安全を守ることにつながることもから、家庭や地域との(①)の推進が不可欠である。

また、「子供の安全」について、学校と児童生徒等・家庭・地域の関係者それぞれの(②)を確認する場を設けることで、例えば、地域ごとに実施される防災訓練において児童生徒等の(②)が設定され、児童生徒等が主体的に安全の確保に向けて取り組むことにつながるなど、学校と地域の(①)と学校安全の双方が推進されることも期待できるものである。

このため、学校は、例えば、地域学校安全委員会や学校警察連絡協議会等の設置・活用や、コミュニティ・スクール((③)制度)や地域学校協働活動などの学校と地域の(①)の仕組みを活用することにより、地域の関係者との情報共有や意見交換を(④)に行うことや、学校安全の観点を組み入れた学校運営や地域ぐるみでの防犯・(⑤)・防災等の取組を行うことが必要である。

ア. 交通安全	イ. 協力体制	ウ. 役割
エ. 学校評議員	オ. 生活安全	カ. 日常的
キ. 学校運営協議会	ク. 形式的	ケ. 目標
	コ. 連携・協働	



東アカの教育時事確認テストで
時事問題対策はバッチリ◎



and more ...